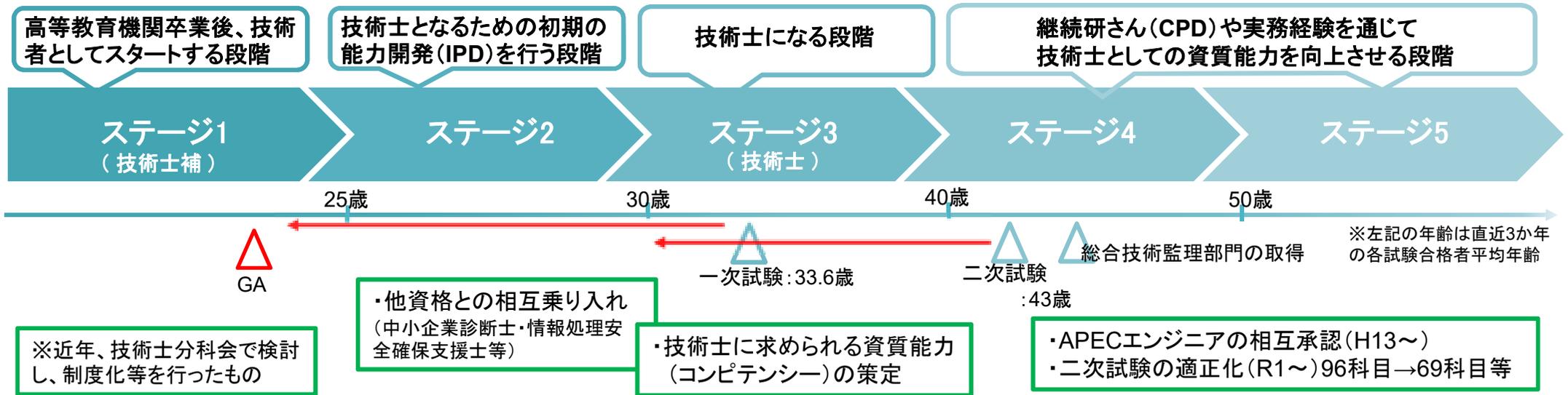


## 1. 技術者キャリア形成スキーム(コアスキーム)(例)と技術士制度



## 2. 本委員会での今期の検討課題の整理

※下表では本委員会の課題を論点整理での事項ごとに分類している。

検討課題	目的	過去の検討内容、論点整理に記載された検討方針等
技術者キャリア形成スキームの周知とそれに合うGA, PCの取得の支援	若手技術者の技術士資格取得を促すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術士制度の活用促進・普及拡大により、若手のエンジニアが技術士資格を取得できるよう、各段階に係る制度の充実は重要である。</li> <li>技術士のキャリア形成スキームの意義を提示するとともに、各段階 (IPD,CPD) に活用できる教材や講座を用意する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>IPD制度の整備、充実</li> <li>技術士補制度の見直し、活用促進</li> </ul>	技術士補 (修習技術者) の段階でのIPD制度の充実により、技術士制度をエンジニア育成に活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国のIPD制度や国内のIPD段階の教育制度等を調査するとともに、技術士資格の取得に当たってIPD制度を用いて教育すべき内容や実施方法を検討し、具現化する。</li> <li>過去の検討に基づき実態に即した活用しやすい位置づけ・制度設計を目指し検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>相互承認に係る検討</li> <li>他国のエンジニア資格制度の構築及び普及への協力</li> </ul>	わが国のエンジニアが国際的にその資質能力を適正に評価され、APECエンジニア等として活躍する環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在日本は豪州とのみ相互承認を行っているが、APECエンジニア、日豪協定共になかなか活用が進んでいない。論点整理では、左記の課題に対し次のような検討を行うこととしていた。</li> <li>相互承認をどのような形で進めるか (マルチorバイ、期間限定の形態等) について国際的な動向を把握しつつ、実行可能性の高い物から対応方策の検討を進める。</li> <li>文部科学省がリーダーシップをとり、日本技術士会や関係省庁の協力を得ながら、エンジニア資格制度が確立していない国に対して、資格制度の構築・普及への協力を積極的に実施する。</li> </ul>